

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 25 日作成)

小委員会名	建築資材の資源循環研究小委員会	主 査 名：野口 貴文 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (環境配慮運営委員会)	委員長名：橘高 義典 主 査 名：小山 明男
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>現在、建築廃棄物の再資源化率は高く、かつ建築材料は多くの廃棄物を受け入れている。しかし、再資源化されている廃棄物は、コンクリートや木材が中心で、排出量の多い石こうボードやガラスなどの再資源化は、ごく一部で行われているのが現状である。それらの促進を図るために、学会として考え方や方向性を示すことが重要である。本活動を通じ、「建築分野における資源循環の考え方(案)」(仮称)を制定することを目的とする。</p> <p>2021 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物を構成する構造材・下地・仕上材に関して、実構造物に対する過去から近年の資源投入量(ストック量)を調査する。 ・建築物の解体、中間処理、最終処分段階での排出・再利用量などを調査する。 <p>2022 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各段階での排出物の資源循環を促進するために、各種建材ごとのその技術・システムのあり方を調査し、データとしてとりまとめる。 ・「建築分野における資源循環の考え方(案)」(仮称)を制定し、出版する。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：野口 貴文(東京大学) 幹事：小山 明男(明治大学)、田村 雅紀(工学院大学) 委員：朝吹 香菜子(国土館大学)、越中谷 光太郎(日本建築仕上材工業会)、北坂 昌二(石膏ボード工業会)、古賀 純子(芝浦工業大学)、佐々木 哲也(高橋カーテンウォール工業)、高木 健治(ノザワ)、高原 幸之助(UBE 三菱セメント)、立屋敷 久志(ダイヤリフォーム)、辻 大二郎(竹中工務店)、松下 健一(ALC 協会)、横山 泰三(塩ビ工業・環境協会)	
設置 WG (WG 名：目的)	特定建設資材廃棄物 WG： 建設リサイクル法における特定建設資材(コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリート)を中心に、これらの資材における評価・時間的推移について調査し、報告する。	
2022 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>コロナ禍に配慮し、2022年度は遠隔会議で実施し、所定の調査研究を行うことができた。 また2024年度の大会研究集会での成果公表、成果書籍のオンラインデータ報告の見通しが立てられた。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>2023～24年度の最終成果とりまとめに向け検討を進めるが、対面での会議も増やし、議論の活性化をより進めていく。</p>